



## 《現地説明会が開催されました！》

8月10日（土曜日）、本調査区（南大原地区）の発掘現場において一般公開を行いました。

センター所長のあいさつの後、現地で職員が説明を行いました。まず、班長が現場を一望できる高台から遺跡の全体説明を行いました。その後、弥生時代中期（およそ2,000年前）、平安時代（およそ1,100年前）の竪穴建物跡近くで、職員が建物などの説明をしました。竪穴建物跡の説明は、実際に発掘調査を行っている職員によるもので、熱の入ったアツイ解説となり、見学者の方々も身を乗り出して聞き入っていました。

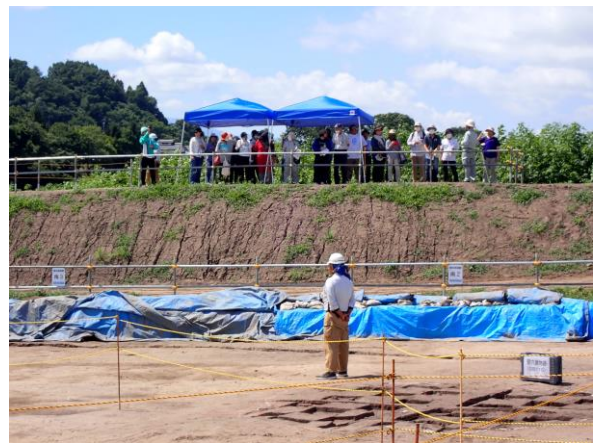
現地見学のほかには、プレハブで出土品の展示、説明も行いました。展示した遺物は、今年と平成の三水中野線関連調査地点での出土品です。弥生土器、土師器、石器、鉄製品など様々なものがあります。今年と平成の調査を担当した職員による解説があり、こちらも見学者は熱心に耳を傾けていました。

見学者は、関東や関西など遠方からも多く訪れ、139名にのぼりました。南大原遺跡の注目度の高さを感じる説明会でした。

今年の調査は、長野県埋蔵文化財センターと日本文化財保護協会とが一緒になって行っています。説明会でも職員がお互いに協力して設営、説明を行うことができました。今後の調査も期待大です。



開会あいさつ



高台での遺跡全体説明



弥生時代竪穴建物跡のアツイ解説



平成と令和調査出土品のアツイ解説

現地説明会の様子は、  
長野県埋蔵文化財センター  
YouTubeでご覧になれます！



## 《確認調査も進んでいます！》

現地説明会を行った南大原地区から微高地（リンゴ畑）をはさんだ反対側の地域では、重機で試掘溝（トレンチ）を掘削して、遺跡の広がり<sup>さかさか</sup>を調べています。現在は、逆川地区が終了し、北大原・舞台地区の調査しています。

### 【北大原地区】

逆川地区の調査が終了し、その北隣となる北大原地区の調査が始まりました。北大原地区は、7月まで北端を調査しており、そこでは平安時代の竪穴建物跡が見つっています。今後の調査の進展が楽しみです。

### 【舞台地区】

7月後半から調査を行っています。8月は、北大原地区の西側を調査しています。北西のトレンチからは、竪穴建物跡とみられる凹みを検出しました。凹みのなかからは奈良～平安時代に使われていた土器（土師器<sup>わん</sup>）の塊が見つかり、この時期の建物跡と考えられます。今後はこの広がりを調べていきます。

## 《今月の逸品！？》

確認調査を行っている地区の調査前の状況は、草むらです。その背丈は2m以上にもなります。調査に入る前の草刈りは、人間では難しく、重機でなぎ倒していく感じです。草の多くはブタクサで、その花粉に皆、困惑しています。草は刈った後もすぐに生えてきます。南大原遺跡は植物にとっては良い土壌なのでしょう。千曲川によって運ばれた肥沃な大地を感じます。



舞台地区の草むら



北大原地区確認調査風景



舞台地区確認調査風景



舞台地区土器出土状況

長野県埋蔵文化財センター

〒388-8007 長野市篠ノ井布施高田963-4

電話：026-293-5926

担当：上田/水科/町田/山田/黒岩

支援業務（公社）日本文化財保護協会

小田/南田/石川/千葉/入江/新谷/  
浅間/佐藤/生駒/水谷/山中/石田

メール：[maibun@naganobunka.or.jp](mailto:maibun@naganobunka.or.jp)

H P：<https://naganomaibun.or.jp>